

1.2014年10月期 連結業績

2.2015年10月期 業績予想

3. 今後の展開

3.現状把握と課題認識

事業環境の現状と今後の予想

- 国内建設市場
 - ・公共工事の増加
 - ・民間設備投資の増加
 - ・2020年の東京五輪を見据えたインフラ整備
再開発事業など、首都圏の建設需要が活発化
- 海外建設市場
 - ・シンガポール「国土利用計画」
 - ・香港「10大プロジェクト」
 - ・東南アジア新興国のインフラ整備需要の増加
- 今後の大型プロジェクト
 - ・国内：東京五輪関連、高速道路、整備新幹線、LNG関連など
 - ・海外：シンガポール（大型港湾整備）、香港（地下鉄、風力発電）
ベトナム、インドネシア、ミャンマーの大型港湾整備

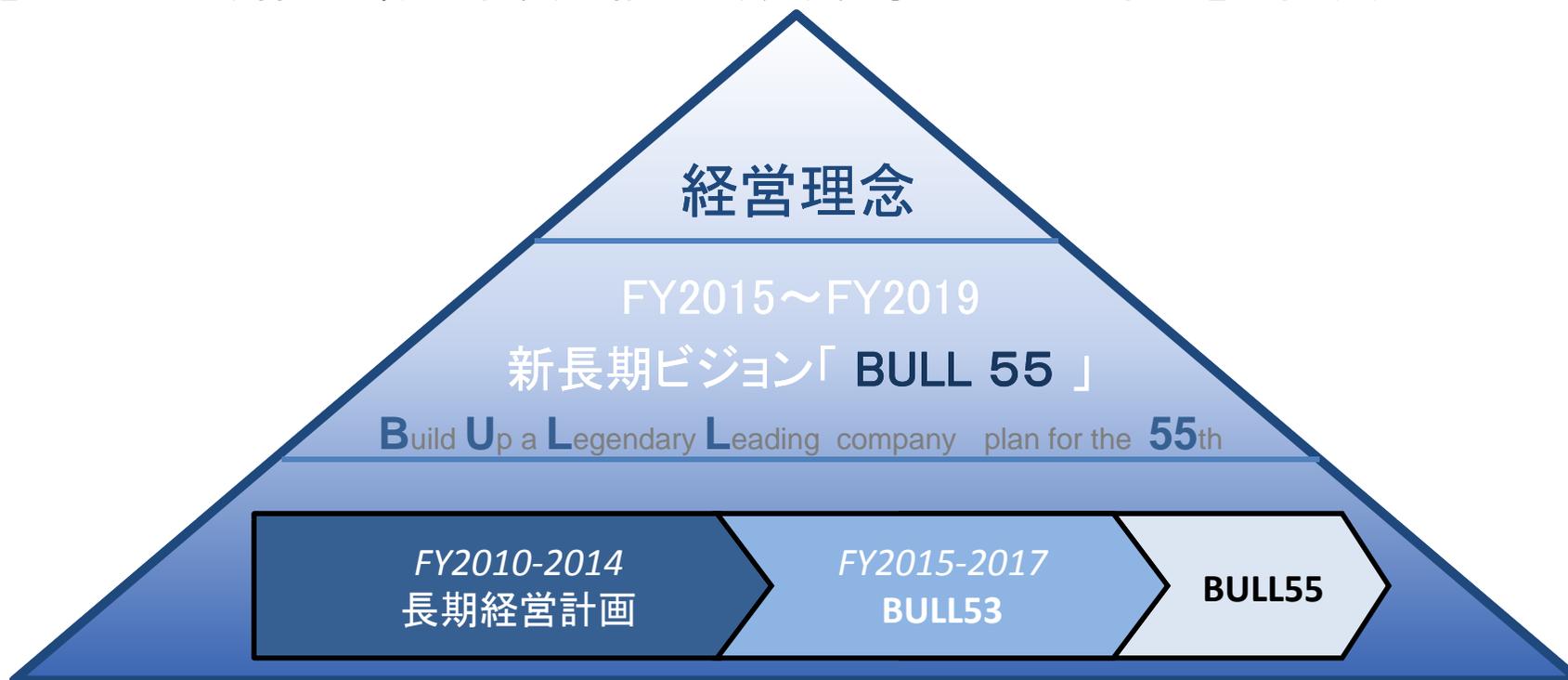


3.新長期ビジョン

■カナモトグループ 新長期ビジョン

「BULL55」 ～Build Up a Legendary Leading company plan for the 55th ～

当社グループは、重要な社会インフラとしての「レンタル」の使命と役割を自覚し高収益を基盤として、株主・顧客・社員に報いる、良質で強力な企業集団を目指す。



3.中期経営計画「BULL53」重点施策

中期経営計画(2014/11-2017/10)“BULL53”

新長期ビジョン“BULL55”の実現に向けた実行計画である2017年までの3カ年計画、中期経営計画“BULL53”を策定し段階的達成を目指します。

重点施策

- 国内営業基盤の拡充
- 海外展開
- 内部オペレーションの最適化



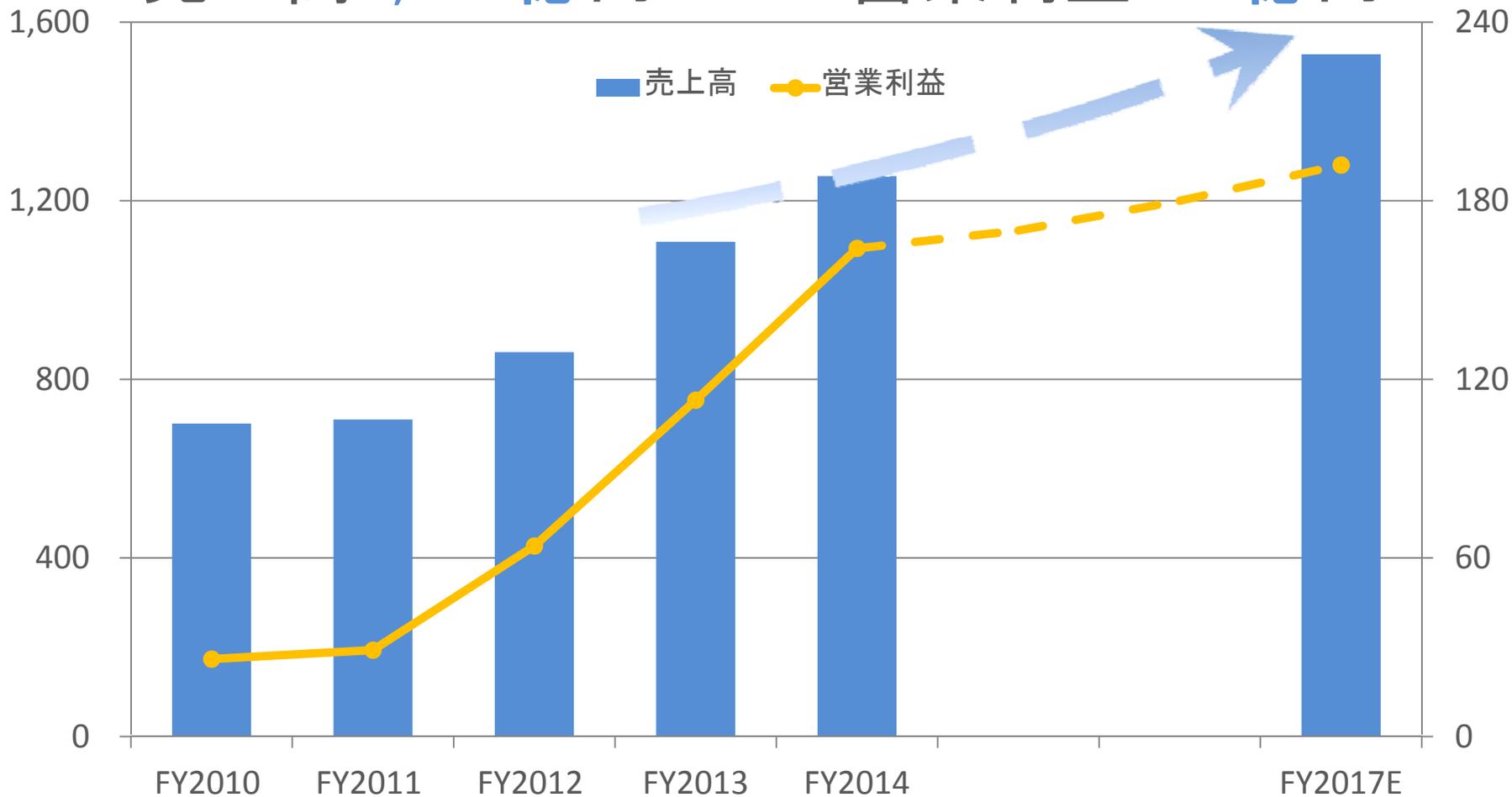
3.数值目標

中期経営計画“BULL53”数值目標

売上高1,500億円

営業利益190億円

(単位:億円)



3.中期経営計画「BULL53」重点施策

重点施策

■ 国内営業基盤の拡充

■ 海外展開

■ 内部オペレーションの最適化

3.中期経営計画「BULL53」重点施策

国内営業基盤の拡充

北海道、東北地区の売上を維持しながら、官民の需要が集中する首都圏等の大都市圏のほか、関東以西の未出店エリアを中心に拠点展開、M&Aを推進し、成長軌道を維持する。

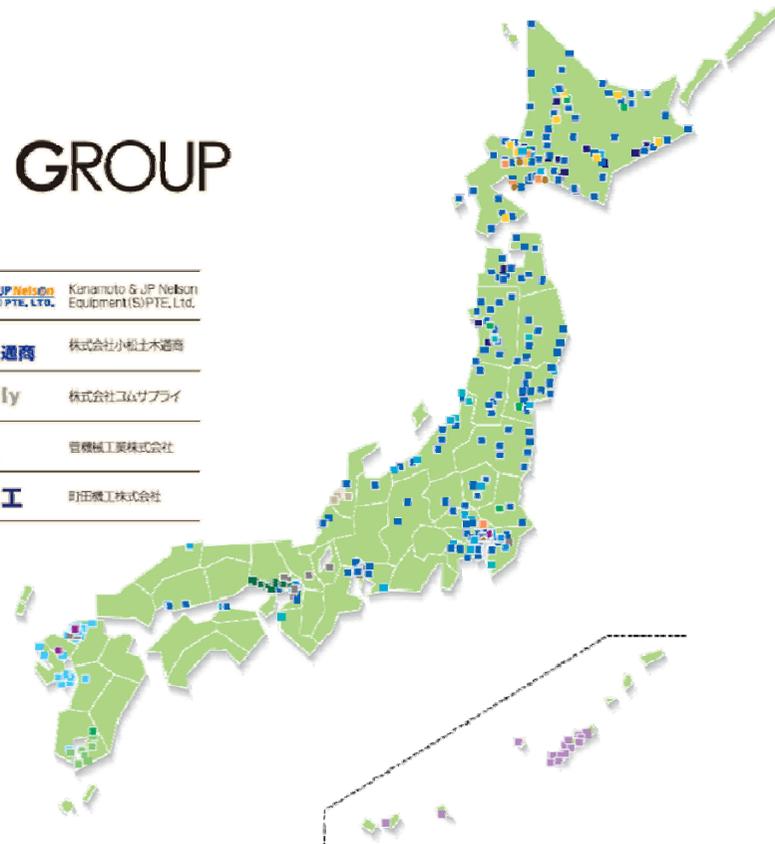


カナモトアライアンスグループ

ASSIST	株式会社アシスト
KANATECH	株式会社カナテック
kanamoto ENGINEERING	株式会社カナモトエンジニアリング
KANKI	株式会社カンキ
九州建産	株式会社九州建産
第一機械産業	第一機械産業株式会社

東洋工業	東洋工業株式会社
UNITE	ユナイテッド株式会社
全和源	上海全和源 建设工程有限公司
kgf	株式会社KGフローテクノ / 株式会社KGフローテクノ
金本(香港)有限公司	金本(香港)有限公司

kanamoto & JP Nelson EQUIPMENT (S) PTE. LTD.	Kanamoto & JP Nelson Equipment (S) PTE. Ltd.
小松土木通商	株式会社小松土木通商
com supply	株式会社コムサプライ
SUGA	管機工業株式会社
町田機工	町田機工株式会社



3.中期経営計画「BULL53」重点施策

重点施策

■ 国内営業基盤の拡充

■ 海外展開

■ 内部オペレーションの最適化

3.中期経営計画「BULL53」重点施策

■海外展開

上海、香港、シンガポールの既存子会社を維持拡大させつつ、さらに発展著しいASEAN諸国を中心に海外事業を展開し、当社グループの得意分野でもある地盤改良やシールド工法など特殊機械の需要が見込まれる、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマー、カンボジアなど、各国における事業展開を図る。



3.中期経営計画「BULL53」重点施策

重点施策

■ 国内営業基盤の拡充

■ 海外展開

■ 内部オペレーションの最適化

3.中期経営計画「BULL53」重点施策

■内部オペレーションの最適化

当社グループの収益の根幹は建設機械の管理と業務の効率化にあると考え、貸出単価・値引管理の強化や「業務改善推進」による業務プロセスの向上からコスト削減、時短の実現を図る。

また、本部サポート機能の拡充、関連各社とのシステム統合により業務の一層の効率化を図る。



お問い合わせ先

株式会社カナモト 社長室広報担当
〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1-19
TEL.011-209-1631(土日祝除く 8:30~17:00)

ホームページ <http://www.kanamoto.co.jp>
IRサイト <https://www.kanamoto.ne.jp>

【免責事項】

本説明会及び説明資料に含まれる歴史的事実ではないものは将来の見通しです。
将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり多分に不確定な要素を含んでおります。
従いましてこれらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。
実際の業績等はさまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。